

令和2年度 第7回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2021年(令和3年)3月25日(木) 午後6時1分～午後7時29分

2 場所

ウェブ開催

3 出席者

(1) 委員 11人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、阿部委員、木村委員、細沼委員、
西上委員、間山委員、原田委員、鎌倉委員

(2) 市側 5人

藤岡主幹、近藤補佐、一瀬主査、浅野主任、緒方主任

(3) 藤沢市市民活動推進センター 1人

関野センター長

(4) ミライカナエル活動サポート事業 協働コーディネーター 2人

手塚氏、堀氏

(5) 傍聴者 なし

4 議題

(1) 令和3年度に向けた取り組みについて

(2) 令和3年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について

(3) その他

5 配布資料

(1) 2020(令和2)年度with コロナ社会の市民活動状況調査報告書

- (2) 2020（令和2）年度with コロナ社会の市民活動状況調査データ集（集計表集）
- (3) 藤沢市市民活動推進計画 < 基本指針 1 >
- (4) 藤沢市市民活動推進計画 < 基本指針 2 >
- (5) 藤沢市市民活動推進計画 < 基本指針 3 >
- (6) 2021（令和3）年度 藤沢市市民活動支援施設事業計画書
- (7) 令和2年度ミライカナエル活動サポート事業協働コース調整結果
- (8) 令和3年度藤沢市市民活動推進委員会の開催スケジュール（案）

6 開催概要

開会

（山岡委員長）ただいまから令和2年度第7回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。初めに、委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告、傍聴者数、資料確認、及び委員会の公開となる旨、報告が行われた

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（1）令和3年度に向けた取り組みについて

○事務局より、令和3年度に向けた取り組みについて、説明が行われた。

（山岡委員長）それでは、今の説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。1つ目は、調査の報告です。2点目は、推進計画、これはもう前回の委員会で一度意見をいただいて、その修正版というか最終版ということですが、何かあればお願いいたします。

（坂井副委員長）資料1-1について、確認の意味でお伺いしたいと思います。

まず5ページの1-3「先行調査の概要」のところ、最後のほうに「団体の規模やテーマに応じた経営的視点を持った受け皿としての役割を果たす」という記述があるのですが、「経営的視点を持った受け皿としての役割を果たす」というのは、どういう意味合い、趣旨なのかというのを確認させていただきたいと思います。

それから、29ページの「支援対象者の変化」という項目です。一応ここの回答は表の上では、213団体の全ての団体がどこかに入っている前提でこの表がつけられていますけれども、対人的な活動ではない活動も、NPOの活動の中には結構あると思うので

すが、そういうものはどういう扱いになったのかなというところです。

あともう一つだけ。38 ページの一番最後の段落で、先ほどの結論でもお話しいただいたと思うのですが、「指定管理団体独自の助成金事業を実施したほか」と書いてあります。これはどこかに書いてあったのかもしれないのですが、指定管理団体独自の助成事業の実施というのは具体的にどんなことだったのかというのを教えていただければと思います。

以上3点、よろしくお願いします。

(市民活動推進センター長) まず5ページの「先行調査の概要」の「団体の規模やテーマに応じた経営的視点」というところです。

先行調査については、今回と比べて4分の1程度の標本数でしたので、クロス集計とか、そういった形での細かい分析が、この段階ではできていなかったのです。ただ、それとは別に、個別にご相談いただいた案件として、この時期ですと、持続化給付金とか、休業補償といったものが、受けられる、受けられないというのが、団体の事情によって大きく違ってくる。そうかといって、団体さんによっては、規模が小さくても、ある程度資金的な支援が必要なところが出ていました。なので、ここの前回調査の結論の文脈としては、こちらに関しては、個々にどういった資金調達手段を選べばいいのかといったところが、ある種、大きかったです。

「支援対象者の変化」のところについては、どちらかというと、団体さん個別なので、個別のデータを見ないと、今ここでお答えするのはかなり難しい内容です。事務局を通じて、別途お伝えする形でよろしければということで、よろしくお願いします。

最後の指定管理団体独自の助成金事業につきましては、センターのお金を使うわけにもいきませんので、指定管理団体のほうで、昨年6月から、募金とか、あと寄付サイト等を使って、あと正直、スタッフからも募金する人がいました。40万円規模の助成金を、8団体に給付するという形で実施したものになります。こちらも詳しくは指定管理団体のホームページを見ていただければというところですが、40万円規模、8団体という規模になります。何かをするためにというよりは、その段階で団体さんの経済事情が悪化していたり、どうしても使わざるを得ないお金が出たような団体さんに、ある種、団体そのものの支援をした。事業支援ではなくて団体支援の助成金として実施したものになります。

(山岡委員長) 報告書のほうは先にお送りいただいています、結構なボリュームがある

ので、読み込むのはなかなか大変でしょうけれども、もし何かお気づきのことがあったら、また聞いていただいたらいいかと思います。

(原田委員) さっき事務局のほうから、推進計画のほうと報告書を絡めた話をしてもいいというお話だったので、1点お聞きしたいのです。

38 ページの「結論」に「全体的に活動が不活発化している」とか、あと「保健・医療・福祉や子ども分野への影響が大きい」というところがあるのですが、こういう報告に対して、来年度の計画ではどういうふうに補っていかしているのかというところが観点として見えないので、そのあたりを、今回の計画はこれでいくとしても、せっかく報告書を出していただいたのですから、その報告書にあるような観点については、とりわけどういうふうにやっていくかという視点を入れていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局) 先ほど説明が漏れていたのですけれども、この報告書については、市民自治推進課だけではなく、他部署にも情報提供させていただく予定です。今後組織改正があるので、4月以降にはなるとは思うのですけれども、それぞれの組織の担当事務などが明確になった時点で、子ども青少年部や福祉健康部のほうには、この調査結果を情報共有させていただきたいと考えております。

その上で、それぞれの部局が捉えている関係する地域関連団体の課題みたいなものも、それぞれ持っていらっしゃると思うので、そのあたりを突合せながら、実際どういった形で今後連携し、市民活動を支えていくか、応援していくかという部分について、課題を共有しながら、来年度の事業の中で捉えて関係課と連携してまいりたいと考えております。

(原田委員) まさに市とどういうふうに調整していくのか。これは推進センターさんの報告書なので、市とどういうふうに深めていくのかというところがわからなかったのです。そういう点からすると、この報告書はやはり推進センターさんの視点になっていて、最後の結論はどうしても資金面とか、そういう話に終始している気がするのですけれども、やはり行政で役所の中のいろいろな担当部局とそのあたりをすり合わせていただくと、もっと見えるところがあると思うので、ぜひよろしくをお願いします。

(山岡委員長) 今の視点はすごく重要なことだと私も思っております。特に「保健・医療・福祉や子ども分野への影響が大きい」とありますが、この分野は、今コロナで一番求められている部分ですね。そこが一番不活性化しているというのは、市民活動を見て

いくときに、こんなふうきちんとデータで出ているわけですから、我々も議論していくときに、そういうことがあるんだというのは意識しなければいけないですし、今おっしゃっていただいたように、関係部署からもきっと情報があると思うので、そこでまた何かわかったことがあれば、ぜひ共有していただきたいと思います。

(細沼委員) 資料2-3の自治会・町内会活動のところですが、先ほど事務局のほうから、13地区あるので、今後その対応が大変だというお話がありましたけれども、13地区全て一度に始めるのは大変だと確かに思います。なので、モデル地区を決めて、始めてみるとか、そういうことをぜひやっていただきたいと思っています。

また、取り組み結果のところ、役員に対して今まで記名して捺印だったのですが、来年度からはそれがなくなったということで、今回、自治会長さんから、とても楽になったと聞いています。今年度は印鑑をもらわなければいけなかったのが、コロナの関係で、それを捺印してもらうのにすごく時間がかかってしまって、市民自治のほうの提出もかなり遅れてしまったということがあったのですが、その辺はすごくやりやすくなったのではないかと考えています。

また、地域課題ですけれども、やはり地域それぞれ課題があって、今コロナも加わり、とても山積みにはなっていると思うので、少しずつでも早めに調査していただいて、地域の自治会に関して、少しでも改善できるようにしていただけたらいいかなと思っています。13地区一度には多分大変だと思うので、少しずつ始めていただきたいと思っています。

(事務局) 細沼委員おっしゃるとおり、13地区ごとに課題もそれぞれで、どの地区からアプローチしていくかという部分は、やはり市民自治推進課よりもさらに地域で展開されているCSWの方ですとか、そういった方々との課題の共有ですとか、意見交換を踏まえて、取り組んでみたいと思っています。

社協さん等とは、そういった方向性で何か少しやれないかということでお話し合いもさせていただいておりますので、まずは少しずつ実績をつくっていただければと考えているところです。ありがとうございました。

(坂井副委員長) 資料2の関係ですけれども、ここに書いてあるのは、コロナで大変かとは思いますが、着々と進めていただきたいと思っています。

少し細かい話ですが、資料2-1の「取組計画」の一番下に「アイデアソンを実施予定」というのがある。とてもいいと思うのですが、「一定のテーマを定めて」とありま

す。このテーマの定め方を、可能であればですが、例えばこういうのも参加型で、こんなテーマを取り上げてほしいみたいなものを募ってもおもしろいかもしれない。そうすると、参加も促進されるのではないかというような気がしました。

それから、資料1—1の調査報告の中で、例えば34ページを見ると、「支援施設等への要望」というのがあって、要望事項として「場所の提供」というのが非常に多いんだというのが改めてわかったのです。コロナの状況によって、これから先どうなるかというところはあるのですけれども、これは活動推進計画には特にないかもかもしれませんが、そういったNPOが活動に使える場所、支援施設以外で使えるような場所、こういうところもありますよというような情報を少し取りまとめて提供してあげるのはどうか。

場合によっては、市の持っている施設で、ふだんはそういうことに使ってないんだけど、こういう緊急事態の間だけ提供してもいいのかなと思えるようなところがあれば、会議室とか、そういうのを提供可能施設として挙げてみるとか、考えてみてもいいのではないのかなと思いました。

(事務局) 緊急事態宣言下におけるNPO団体の方々の活動場所というと、藤沢市においては、市民の方々が利用できる会議室については、利用を休止させていただいていた状況がございます。ただ、緊急事態宣言も解除されましたので、市といたしましては、感染予防対策をしっかりと行っていただいた上で、必要に応じて公共施設を使って活動をしていただきたいので、引き続きご案内はしてまいりたいと考えております。

(山岡委員長) 私から一個だけいいですか。資料2—3の先ほどの説明で「地域の課題に対し、NPO団体等が持っているノウハウを提供する取り組み」という部分を追記いただいていると思うのですが、これはすごくいいことだと思いますし、ほかの庁内関係各課あるいは社協とも連携してということだと思います。だけど、これはそんなに簡単ではないというような気がするのです。具体的に何か考えられていることとか、想定、イメージできているようなこととか、こういうことで実際にいけそうなんだとか、もしあれば、ちょっとご紹介いただければと思うのです。

(事務局) 実は必ずしも支援対象を自治会・町内会に限定しているわけではありません。地域ではいろいろな活動をされている地縁団体等もございますので、まずどこにアプローチしていくかという部分はもちろんこれから検討していかなければいけないのですけれども、その中で、市民活動推進センターさんが持っている情報、例えばNPO団体さんが持っているノウハウみたいなものと、自治会・町内会さんとか地縁団体の方が、

人員の不足という部分で、どうしても手が回らないとか、あるいは IT のノウハウが無いとか、そういったものを、例えばNPO法人にお手伝いいただく、アウトソースしていく取り組みとかもあってもいいのではないかと考えております。

具体的にどういったものというのは、やはり 13 地区ごとに課題はそれぞれで、まだまだ具体的には見えていないところではあるのですけれども、実際はそういった取り組みをイメージしながら、その課題を抱えている団体さんに少しずつアプローチして行って、少しずつひもときながら、やっていければと考えているところです。

(山岡委員長) わかりました。多少時間もかけてということですね。

それでは、よろしければ、以上で議題（1）「令和 3 年度に向けた取り組みについて」を終了します。

÷ ÷

(2) 令和 3 年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について

○事務局より、令和 3 年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。

これは、来週から 4 月で新年度ですから、もうこれでいくということで、確認とか質問とか、そういうことですね。

(鎌倉委員) 11 ページの④の「市民活動データベースの作成」のところの b 「Excel ベースを脱却し」という部分ですが、ちょっと理解ができなかったのが、現状はどんなで、なぜ脱却しなければいけないのかというのをご説明いただければありがたいです。

(市民活動推進センター長) まず今、団体等のデータに関しては、ここに書いてあるとおり Excel ベースとなっています。例えば団体さんからご要望が出ているような登録・更新とか、そういったことを Web でできるようにとか、そういった場合に、Excel ではなくて、クラウドサービスを使わないと、直接の反映がなかなかしにくいというところがあります。それが主な理由になります。

(鎌倉委員) それはホームページを統合する作業があるので、結構いじくと思うのですが、ホームページ上のそういう質問とか問い合わせとかいうような部分で吸収するとかいうことはできないのですか。

(市民活動推進センター長) ウェブサイトの改定の担当が、プラザの林が中心になっておりますので、そちらに任せてよろしいでしょうか。

(林委員) まず Excel ではない何を使うかということで、セールスフォースとか、いろいろなソフトというか、アプリケーションがあると思うのですが、今のところ、サイボウズ社が使っています kintone というのを使おうということで、勉強をして、少しずつつくり出している最中です。

代用をしていこうという理由なんですけれども、本当に一番簡単に言えば、こうやって事業所が2つあるからです。Excel だと、毎回、毎回アップロードをして、共有するというのをしなければいけないのですが、それがオンラインサービスであれば、両方から同時に見ることができますので、それを早く変えたいなということで始めております。

(鎌倉委員) ありがとうございます。kintone、賛成です。

(山岡委員長) ほかにいかがでしょうか。

(原田委員) 2021 年の重点取り組みの1つ目がウィズコロナに合わせた転換の支援と、2つ目がオリンピックです。

オリンピックのほうも柱の1つとしてあったわけですが、今の状況を見ると、例えば市民応援団が実際ボランティアとして活動できるかどうかということも、ちょっと謎というか、どうなるかわからない中で、いわゆる市民応援団として集まったボランティアの方々を、ロンドン・オリンピックのようにレガシーとして、NPOなり市民活動につないでいくというのが1つの目標とするところだったと思うのです。

このあたりが、実際、Web での展開だけになってしまうと、なかなか難しいかなという気がしているのですが、実際の行動としてボランティアにあまり加われなかった場合に、どのようにしていこうと考えていらっしゃるのか、そのあたりをお聞かせください。

(市民活動推進センター長) 現状の私どもの計画内で考えている点というと、まず学習機会のほうなんですけれども、こちらに関しては、ボランティアマネジメントの講座というのを実施する予定です。具体的には期の途中で恐らく講座のリスト等が出せるかと思いますが、うちの役割としては、団体さんの支援というところになりますので、まずそこに関しては受け入れの作法とか、ボランティアさんの集め方とか、そこら辺の部分を講座としては反映しようと考えています。

おっしゃるところの解決にはあまりなっていないのかなと思うのですが、「VOLUNTEERS」を毎年出していますけれども、それも今回に関しては特別号を出

して、市民応援団等に呼びかけていこうかなと今のところ計画しております。施設としては、今の段階で言うと、そこまでの内容となっております。

(原田委員) 実際オリンピックのほうでの活動がなかなか具体化していかない中で、どうしても柱の1つとしては弱くなってしまうのかなというふうに思います。それで1つ目の「ウィズコロナ・ポストコロナに合わせた新たな活動への転換を支援する」というところをぜひ強化していただけないかと思うのです。

そう思って見てみると、資料の中で「ウィズコロナに合わせた新たな活動への転換を支援する」というのが6ページに出ているのですが、ここが「リモート会議の推進」や「資金調達方法について学ぶこと」などになっております。

以前から話が出ているのですが、リモート会議にもたどり着けないような団体ですとか、あと、先ほど副委員長のほうからお話がありましたけれども、活動場所をなくして困っている団体さんがあります。これはコロナのときに市が会議室なりを全部閉じてしまうと、実際に活動できる場所が本当に少ないわけです。

そういう中でその活動場所をどういうふうにつくっていくのか。今年度の状況を鑑みつつ、来年度もまたコロナで自粛ということもあると思いますので、そういうことも含めて、ぜひ推進センターさんのほうで、いろいろなデータなり情報収集をして、共有していただけないかなと思うのですけれども、そのあたりはいかがですか。

(市民活動推進センター長) まずITの支援のところ、リモート会議にもたどり着かないような団体さんということですが、前回もちろっと話題には出したのですけれども、うちの場合ですと、ITサポーターさんといううちのボランティアさんがボランティアチームをつくって、講座もその方々にやっていただいております。

昨年度のもので結構ですので、うちの報告書を見ていただくと、IT講座の件数はかなり多いです。団体さんの中で常連さんみたいな方もいらっしゃいます。そのチーム自体が団体さんにはかなり信頼していただいて、来る方は、それこそ休館中にも来ていただいておりますので、ご相談の個別対応の中では、実際、今年度もかなり直接に進めてきた部分があります。

休館中の活動場所につきましては、こちらとしても緊急事態宣言が出ている間は、正直かなり悩みどころで、ある程度提供すること自体が、ほかの手段でも割と現実的ではないのですけれども、うちの指定管理団体のほうで部屋を持っていましたので、本当に緊急の団体さんがいらっしゃった場合は、そちらも有償にはなりますが、使っていた

くということはしていました。

なので、今年度に関しては、もうその場その場で、割と臨機応変には対応してきたつもりではございます。ただ、いわゆる計画書とかに個別の案件があらわれてこない事項にはなってきますので、この点はあらわしてないだけで、やっちはいますよというところにはなってきます。

(原田委員) 推進センターさんもNPOでいらっしゃるの、市ではできないというか、直営ではないメリットというのも当然おありになると思います。そういう意味で、公共施設を使わない民間の場所であったり、そういう情報も入ると思いますので、そういった情報をもっと収集して、発信していただければと思います。

(市民活動推進センター長) わかりました。実は前にホームページ上で出したこともあるのですけれども、更新するごとに、どうしても下に行ってしまうのです。そこも更新していないと、やはり最新の情報になりませんので、そこら辺は新しいウェブサイトを含めて対応させていただきます。

(原田委員) よろしくお願いします。

(阿部委員) この資料を見まして、既に活動していらっしゃる団体に対しての支援というのはなかなか充実しているなと思うのですけれども、まだ活動してないというか、これから何か始めたい人をどう引っ張り上げるかという市民活動の輪を広げていくこともまた大事だと思うのです。そこに対しての方策があまりよく見えてこないと思っております。いつも言っていることですが、これは推進センターというよりも、市の活動になるのかもしれませんが、もっとやってみたいということのアプローチができるような手段を考える必要はないのかなと思っております。

例えば私が保険の見積もりをしようと思います。コンピューターをカチカチッとやって、「あなたはどこに住んでいますか」、「年収は幾らですか」みたいな設問があつて、こういうのを提案しますというふうにとどり着くようになっているのです。例えば推進センターさんのホームページの中で、何かやりたいという質問に対して、それは奉仕とかボランティアですか、それとも何か勉強したいのですか、健康のためにやりたいんですか、そういうことでたどっていくと、こういうものが紹介できますので、それについてはここに手紙を送っていただければ、また詳しく紹介しますみたいなページがあるといいのではないかという気がしたのですけれども、そんなことはいかがでございましょうか。

(市民活動推進センター長) まずウェブサイトに関しては、改定予定ではございますが、おっしゃるとおりで、もともと団体さんの支援という前提で構成している面がかなりございます。なので、今の段階で言いますと、団体向けの内容というのが、トップページの内容に行きがちになってきます。

前回からもご指摘いただいている「VOLUNTEERS」のWeb版等がたどれはするのですが、やはり少し見つけにくいですし、初めて来た方にとって適切な内容にすぐにとどり着けるような構成になっていないなどというのは、伺っていて感じました。

そこに関しては、どうしても改定する際の対応になってくるかと思うのですが、どちらかというところと、あとボランティアを探している人とか、支援をしたい人が、ちゃんと道筋をつけられるような案内のホームページにできるよう進めてまいりますという回答になりますが、よろしいでしょうかね。

(阿部委員) わかりました。よろしく願いいたします。

(山岡委員長) ほかにいかがでしょうか。——よろしいですかね。

次年度についても先が見通せないですから、なかなか計画といってもというところはあると思うのですが、そうはいっても、ある程度きちんと計画を立ててやっていくことも重要ですので、ぜひよろしく願いいたします。

以上で議題(2)「令和3年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(3) その他

・令和2年度ミライカナエル活動サポート事業協働コースにおける調整結果について

○事務局より、令和2年度ミライカナエル活動サポート事業協働コースにおける調整結果について、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の説明について、もし確認したいこと、あるいはご質問等あればお願いいたします。

(木村委員) 7番のクリーンエイドフォーラムさんは、市とは協働せずに、日本環境設計とのみ協働という形で採択をされたということです。こういった形は今後も出てくるかもしれないのですが、そういった場合に、行政として、この事業の枠組みの中で、どういうサポートをしていくのか。ある意味で民間同士で進めていくようなことの中で、市として、例えば活動に対するどういうサポートとかをしていくのかというのは、何か

議論といたしますか、採択に際してそのあたりはございましたでしょうか。

(協働コーディネーター) 私のほうの感覚では、今回どうしても市のほうでリサイクルという部分について、そこに関しては施策が幾つもあって、ご協力をするのがなかなか難しいというご判断をされました。今回は汚れたペットボトルなので、藤沢市が取り組んでないところをやるということで、調整は相当深くやろうとしたのですが、リサイクルも大事だがリデュースという行政の方針があるので、やはり直接的にご支援ができない。

ただ、これは民民の協働でありながら、ミライカナエル活動サポート事業の協働コースに採択された事業ですので、ほかの事業と同じように、今後きちんにご報告もいただけます。また、何か困ったとき、市のほうでも、うちと組むのは難しいけれども情報提供等のご協力はできますよとおっしゃっていただいているので、そこは縁が切れたというふうにはお互いに考えていないという状況です。

(木村委員) そういうことであれば、広報の支援ということと、本地域で活動するに当たってのサポートは、市民自治推進課というところの整理はできているという理解でよろしいですか。今後もこういうことが生じてくると思うのですけれども、そういったときに、何か施策等のところは、もしかしたら指摘が出てくる場所かもしれません。

これを見たときには、リサイクルカリデュースかというお話はあるにしても、例えば今お話しいただいたようなリサイクルの領域に対して、市として今後取り組んでいくとか、そういったところがあるから、R&D的に一緒に勉強させてもらうという意味もあって、そういうサポートや協働であれば、1つそういった観点とか立ち位置もあるのかなというところで整理はできるのですけれども、施策と違うことを支援するというところの整合性というのは、もしかしたら問われるのかなとも思いましたので、一応来年度に向けてということで指摘をさせていただきました。

(原田委員) 今ご説明していただいたのは、協働コーディネーターさんがそこに在籍した上で、両方の状況を聞き取ってということだと思っております。7番もそうですし、3番もそうだと思うのですが、政策と合わないことに関して、3番の場合は時期的なものではありますが、とはいえ、政策と合わないけれども、やるべきであると判断するのであれば、やったほうがいいのかという考え方もあるのです。

ミライカナエル活動サポート事業のスキームとして、最初に調整相手と調整をしてから採択をするのか。それとも、先に審議会にかけて採択をして、これはやるべきという

ものに関して、協働相手も含めて、市でやってねというふうに投げるのかという話の中で、この調査結果を出していただいたんだと思うのですけれども、協働コーディネーターさんとしては、そのあたりは聞き取っている中でどういうふうに感じられたのか、感想をお聞かせください。

(協働コーディネーター) ミライカナエル活動サポート事業の中に助成金制度と協働事業と2通りあるわけです。助成金に関しては、施策に合おうが合うまいがどんどん選んだほうが良いと個人的には考えています。

ただ、協働コースに関して言うと、お金はともかくとして、行政がある程度の職員を割くという事業なんです。そうすると、職員を割いてやるといったときに、行政のお仕事の範疇を超えてしまうことによるリスクというのは、行政サイドにも出てくるのではないかと思います。ただ、そうではなくて、新しい制度とか、新しい施策をきちんと進めるんだ、今はここが重要だという、3番と7番のような考え方をするときには、協働と一緒にやるというよりは、まず団体の皆さんが自分たちでやってみて、これはすごく大切ですよという部分で言うと、私は助成金のほうに向いているのではないかと思います。

今後この委員会の中で、そこはご議論いただきたいと思っているのですが、いろいろな考え方がもちろんあるので、市民活動は本当に自分たちのアイデアと創造性で勝負ですから、行政の施策と全然合わないことをいっぱい考えています。実は私もそうです。ですから、そこについては丁寧に調整をしながらなので、もちろん審査会で皆さんがそれはやるべきだということであればお進めいただくということで、順番を変えるということも皆さんの中でご議論いただければよろしいのではないかと私は考えております。

(原田委員) よくわかりました。そうすると、新しい観点とか新しい政策に関しては、いきなり協働というのはなかなか難しいというところですかね。

(協働コーディネーター) 私はそう感じます。だから、先に自分たちで、こういうやり方ができるよということを、ありとあらゆる手を使って先行しておいていただけると、その後、あっ、よかったということになる。市のほうで悩んでいることに対して、解決の方策が、これもあるよ、あれもあるよというような言い方の協働事業のほうが、市としても乗りやすいと思います。

また、行政はやはり費用対効果を見ないといけないということがあるのだろうと思います。私たちはそこは少し斜めに見ているところもあるので、「どっちが費用対効果が

あるの？」とつい感じてしまうのですが、それでもまずは地道に少しずつやってみる。私もこれまで事業の提案をしたこともあります。けんもほろろに「そんなニーズはどこにあるんだ」と言われ、泣く泣く引き下がった事業とかもいっぱいありますので、そこは手をかえ品をかえ、動いていたほうがいいかなという気はします。

(原田委員) わかりました。新しい風を行政に吹かせるためにもこの協働コースがあると思ってきたんですけれども、前提が必要だということですかね。

(協働コーディネーター) そうですね。よろしくお願いします。

(協働コーディネーター) 報告は先ほどご説明したとおりです。協働コースについては、両者が同じものを背負って成功に導くということがありますので、同じ負のものというか、成功に導くために、さまざまなものをお互いに背負っていけるかというようなことを、お互いが理解していかないと難しいのが協働なのかなと思っています。協働コースは協力事業ではありませんので、そういう意味では、皆様のご指導のもとで、本当に助成金のほうがいいのか、協働がいいのか、団体さんにも一度ご説明していただく機会を持っていただくといいのかなと私は感じさせていただきました。

(山岡委員長) ほかにいかがでしょうか。——よろしいですかね。

調整の部分は、本当に丁寧に調整していただいて、私どももこうやって見ると、なるほど、そういうことがあったのだなとわかりますし、こういうやり方をしていく上では、そのプロセスをこういう場で共有していくというのはすごく大事なと改めて思いました。来年度1年間でプレゼンのタイミングをどうするかということを議論していきましようとなっていますけれども、そのためにもまずはプロセスを見えるようにしていくことが重要だなと思います。

÷÷÷

・令和3年度藤沢市市民活動推進委員会の開催スケジュールについて

○事務局より、令和3年度藤沢市市民活動推進委員会の開催スケジュールについて、説明が行われた。

(山岡委員長) スケジュールのことについて、今の説明で何か確認しておきたいこととかがあればいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、これで本日の日程は全て終了しました。また、本日をおもちまし

て、今年度の委員会は全て終了となります。今年度、コロナ禍での委員会で、制約のある中、委員の皆様には本当にご協力をいただきました。途中、議事進行が拙いところもありました。また、事務局におきましても、運営で、こういう急遽のオンラインとか、ご対応いただきました。本当にありがとうございました。

コロナ禍で本当に大変な状況になっているというのはどこの世界や業界も一緒に、それぞれ皆さんご苦勞がおありの中でお仕事をされていると思います。市民活動も同じわけです。ただ、こういう緊急時とか、災害時もそうですけれども、まさにそういうときに、市民活動というのは求められる、果たすべき役割があります。さまざまな活動の現場において、この委員会を通じてもですが、今回のコロナ禍では、そういうことを私はすごく痛感をしました。

この委員会でできることはそんなにかもかもしれません。実際には現場で汗を流している方たちが全てやっておられるわけです。しかし、そうした現場の声を聞きながら、少しでも、そうした求められている、果たすべき役割がある活動を支えていくことができるように、この委員会が働くことができればよいなと思っておりますし、これからもそのようにしていきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして第7回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は大変お疲れさまでした。

午後7時29分 閉会